

# 魅力ある学校づくり地域協議会通信

発行 魅力ある学校づくり地域協議会支援会議  
宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課

## 1 「小中魅力ある学校づくり地域協議会関係者研修会」の報告について

- ・ 標記研修会(市教委、魅力ある学校づくり地域協議会支援会議共催)が、平成 25 年 10 月 31 日に市立南図書館で、98 名の関係者の方の参加を得て開催されました。
- ・ 当日は、協議会や学校の代表者、地域コーディネーターを対象に、地域学校園の効果的な取組や課題について情報共有し、今後の取組の参考にするため方策について再確認したところです。

### 第 1 部 実践事例発表 「田原地域学校園のとくみ」

**田原中学校魅力ある学校づくり地域協議会会長 田中孝男氏**

○それぞれの魅力協議会が個別に地域の実情に応じた活動を行う一方で、地域学校園の中で地域の教育資源を共有することが効果的な活動を連携して実施している。

○具体的には、中学校魅力協議会委員も務める愛好会の方の協力を得て、田原中学校に設置してある天文台を生かし、小中学生とその保護者が交流する「親子星空観察会」を開催した。

○また、音楽を通して小中学生が交流する「田原地域学校園演奏会」、地域学校園において教育理念や地域の子ども像を共有するために合同で開催する「教育講演会」(手塚貴子氏による「サッカーと出会って」)、「あいさつ標語の掲示」など、地域の特色を生かした活動を実施している。

○これらの活動を通して、「地域で子どもを見守り、育てる」意識と地域の教育力を向上させたい。



### 第 2 部 講話 「地域学校園内の連携した取り組みについて」

**NPO 法人まちど学校の未来代表理事 中央教育審議会教育振興基本計画部会臨時委員**

**横浜市立東山田中学校コミュニティハウス館長 竹原和泉氏**



○学校が、地域住民と一体となって子どもを育む「地域とともにある学校」を進めるには、多彩な人々の参画を得ながら地域住民と目標(地域の子ども像)を共有することが必要である。

○一方で、地域住民には、地域の子どもの将来像を学校を含む地域全体で共有し、学校の内外で育ちに関わることで、自らも学び、将来のまちづくりに繋がるメリットがある。

○子どものよりよい成長には、小学校から中学校への育ちの時間軸と学校・家庭・地域の連携による空間軸が有機的に結びつくことが重要である。小中学校が連携し義務教育9年間をひとまとまりとして捉える小中一貫教育の取組と、学校・家庭・地域・企業が情報や思い、アクションを共有する魅力ある学校づくり地域協議会が果たす役割は非常に大きい。

○地域コーディネーターの活動のポイントは、①プロセスを大切にすること、②小さな成功体験を共有すること、③日常のコミュニケーションを大切にすることであり、活動中の合言葉は「一緒にやってみましょう!」である。(竹原先生が編集したハンドブック「学校へ行こう～大人も学べる学校支援ボランティア～」の一部を参考に添付しました。)

○すべての教職員と地域住民が、「わたしたちのまち」「わたしたちの学校」という意識になってもらいたい。

## 2 平成 25 年度「第2回地域コーディネーター研修会」の報告について

- ・ 標記研修会(県教委, 市教委, 魅力ある学校づくり地域協議会支援会議共催)が, 平成 25 年 12 月 13 日に県総合教育センターで, 78名の関係者の方の参加を得て開催されました。
- ・ 当日は, 主に地域コーディネーター, 社会教育主事等を対象に, 学校と地域が融合して取り組む先進事例や活動の工夫を情報共有し, その意義を再確認したところです。

### 第1部 講話「できる人が, できるときに, 無理なく, 楽しく！」

文部科学省コミュニティ・スクール推進員 習志野市秋津コミュニティ顧問 岸祐司氏

- 学校教育と社会教育の「連携」よりも一歩進んだ, 「融合」が求められている。連携とは, Give & Take の関係で物的・人的な資産の交換を行うものであるのに対し, 融合とは Win & Win の関係で物的・人的な資産を共有, 協働し, 双方のメリットが一致するものである。
- 地縁, 血縁ではなく, 学校を拠点に子縁を生かして人と人, 学校と地域が繋がることで, 生涯学習と福祉コミュニティ, 地域ぐるみの子育てが三位一体で実現できる。
- 秋津コミュニティでは, 「できる人が, できるときに, 無理なく, 楽しく」学校の教育活動を支援することで, 学校と子ども, 保護者・住民の3者が成果を共有している。
- 学校評価のPDCA サイクルのアクション(改善)を重視している学校や, 家庭・地域が学校教育に積極的に参画している学校では, 子どもたちの「知徳体」の向上, 増進が図られている。
- 子どもたちは多くの大人とふれあい, 様々な体験を通してコミュニケーション能力や自尊心などの見えない学力とも表現される「生きる力」を身に付けている。



### 第2部 グループ協議

「秋津コミュニティの成功要因」について, 各々の地域の実情に応じた実践に結びつけるための情報交換を行いました。グループ協議の中での主な意見・工夫を紹介します。

#### ○活動への協力者探し

- ・ 地域の既存のイベントへ参加, 若しくは地域参加型のイベントを開催し, 人脈をつくる。
- ・ 行動力がある「おやじの会」を巻き込み, 協力してくれる男性を開拓すると活動の幅が広がる。
- ・ 活動の入り口のハードルを下げ, 低いステップを少しずつ上げる段階を用意する。(登下校の見守りから始まり, 昔遊び支援へステップアップ)
- ・ まちづくり推進協議会など地域を代表する団体と連携を図ることで, 人材確保や円滑な活動実施が図られた。
- ・ 自治会回覧や口コミの力は大きい。参加したボランティアが, よい体験談を地域の中で情報発信してもらいたい。
- ・ 協議会委員がもつ人脈も生かせるので, 委員を増員すると協力者も比例して増加する。



#### ○コーディネーター活動の工夫

- ・ 「苦しくならない程度の努力」が, 活動を長く継続するためのコツであり, それだけで十分。
- ・ 地域と学校が同じ方向を向いて地域の子どものためには, 学校の理解が不可欠である。
- ・ 委員や地域コーディネーターの認知度を上げるため, 顔写真つきの広報誌を発行している。
- ・ 社会教育主事や副校長など, 学校側の窓口を明らかにしてもらう。

## 3 お知らせ

- 「魅力ある学校づくり地域協議会情報交換会」のご案内
- ・ 1月30日に「学校運営への参画機能の充実」をテーマにした情報交換会を開催いたします。詳しくは, 市教委学校教育課から発送するお知らせをご覧ください。